

新人職員のホンネ

令和6年度に新規で入省した7人の職員に入省時の感想や皆さんへのメッセージを聞いてみました。



Q1 官庁訪問とはどのようなものですが？

Q2 入省して感じたことは？

Q3 学生時代に学んだことが仕事に活かされていますか

Q4 このパンフレットをご覧になっている皆さんへのメッセージ

保険局調査課高齢者医療係 出口 拓

A3

学生時代は情報分野でシミュレーション研究を行っていました。現在の業務でもデータ処理や分析用にプログラムを組んだり、学術論文を参照したりすることがあり、研究での経験は活かされていると思います。

A4

デジタル的な素養を活かしつつ、生活に密接に関わる仕事をしたいという思いから入省しました。と言いつつも制度・法律の知識は持っていなかったのですが、周りの方たちに助けていただきながら学びの多い毎日を送っています。また、公表した結果についてお問い合わせを受けることもあり、生活に直結する医療保険制度への関心の高さを実感する日々です。少しでも興味を持っていただいた方は是非説明会等に参加してみてください。



A1

私は官庁訪問前の説明会等に一度も行ったことがなく、官庁訪問中に数理・デジタル職のいろはを伺うことになりました。そんな私にも先輩方は懇切丁寧に説明していただいて、数理・デジタル職を希望することに決めました。

A4

私には、ある問題意識に対し、どのように定量化するか考え、それを基にデータをいろいろ分析して何かしらの結論を得たいという思いがありますが、元々整備されたデータが豊富にある、企業とは異なる独自の問題意識がある、多種多様な政策（評価指標の材料）がある、いろんな背景の方がいらっしゃるといった点で面白い職場だと思っています。

A3

まだ1年目なのであまり専門的な仕事には携われていませんが、集計作業などを行う際には研究などで培ったプログラミング能力を活かしています。また、国際機関からの依頼があった時には海外の論文や教科書を読むことなどで培った語学力を使って仕事をすることがあります。

A4

私は学生のころ、将来はこれまで学んで来た物理や数学で培った素養を活かせる仕事がしたいと思っていました。数理・デジタル職は、数理的な素養を活かして国民の暮らしを直接支える政策に貢献できることを知り、入省することを決めました。
私は説明会に複数回参加しましたが、参加する度に面白い話が聞けて、志望度が高まっていったと思います。みなさんも是非、説明会に参加して、色々な人の話を聞いてみてください。

政策統括官付参事官(企画調整担当)付
審査解析室総合解析係 鵜澤 香輝

A1

就活におけるエントリーシートのようなものを、希望した省庁に送ることで始まります。この際、中央省庁にも色々な省庁があるので、合同説明会などを駆使して自分が何をしたいのか、そこでどんなスキルを生かせるかよく考えて選ぶとよいです。面接対策のために日頃から人々と話すことを心がけるのもよいでしょう。

A4

卒業研究でコロナウイルスの感染者情報を使用したことが、数理・デジタル職を知るきっかけとなりました。現在は生命表の計算や各調査の標本設計、誤差計算を担当しています。働いてみてテレビで見たことがある調査のデータを自身が扱うというやりがいと責任の大きさを感じました。入りたての頃は先輩や上司のやっている作業を理解できませんでしたが、日々勉強し、業務をすることで少しずつ理解が来ています。ぜひ説明会などに参加してみてください。きっと先輩方が丁寧に説明してくれます。

政策統括官付参事官(企画調整担当)付
審査解析室標本技術支援係 大橋 遼

A3

研究内容そのものが完全に生かされるというわけではありませんでしたが、理系的素養は求められていると考えています。目の前のタスクについて「結果としてどのような性質が必要で、過程としてどのような処理でそれが実現できるか」を整理する能力は必要とされています。

A4

厚生労働省が携わる仕事は極めて手広く、その中に自分のやれることがきっとある、貢献と成長が可能であると考えて厚生労働省の数理・デジタル職を志望しました。今、この判断は誤っていないと感じつつ満足して業務に励んでいます。もしこのパンフレットをご覧になり、皆様の能力と興味を生かす場として数理・デジタル職という採用区分に興味を持てただけなら、ぜひ説明会等にご参加下さい。



政策統括官付参事官(企画調整担当)付
雇用・賃金福祉統計室毎動調整係 中川 政俊

A2

霞ヶ関と聞いて一般的に想像していたイメージよりも、はるかにホワイトな職場で自由な働き方ができる環境だと思います。また、上司や先輩も親身に教えてくださり、人を育てる文化があると感じます。加えて、日本の労働環境を良くしたいといった自分と近い志をもった同期と出会えたことも入省してよかったと思える点です。

A4

私は人々のために仕事をしたいという漠然とした思いがあり国家公務員を志望したものの、どの分野で働きたいかという確固たるものは決まっていませんでした。厚生労働省の数理・デジタル職を選んだのは、自ら手を動かして社会課題を解決する一助を担えることに興味を惹かれたためです。現在は公的統計を作成する部署にいますが、自らが担当した統計が様々な場面で使われていることで国民生活の基盤を支えている実感を得られる仕事だと思います。

年金局事業企画課調査室
統計調査係 松崎 孝輝

A1

官庁訪問は、自己と向き合いながら仕事を見つけることができるような採用プロセスでした。様々な選択肢があるなかで、職員の方々のお話を聞くうちに、厚生労働省はマッチするのではないかと感じました。少しでも興味ある点があれば、足を運んでくださればと思います。

A4

私は数学的な素養とマッチする職業とは一体何なのだろうと試験を見たり説明会に足を運ぶ中で偶然厚生労働省に数理・デジタル系というものがあることを知り、興味を持ちました。学業的な内容に関して直接仕事に役立つことは僅かだとは思いますが、論理的な思考を活かしながら仕事に取り組みています。また、そのような考え方に理解のある方々も多く、実務でも先輩方や同期と相談し、自己を成長させられる職場であると感じます。